

2024/3/26(火) OCJpnミニワークショップ@香川

山形県がん・生殖医療ネットワークのあゆみ



山形大学医学部 産科婦人科学講座
松川 淳

香川県と山形県



香川県

山形県

面積

1,877km²

9,325km²

人口

95万人

108万人

がん・生殖医療

Oncology + Fertility = Oncofertility

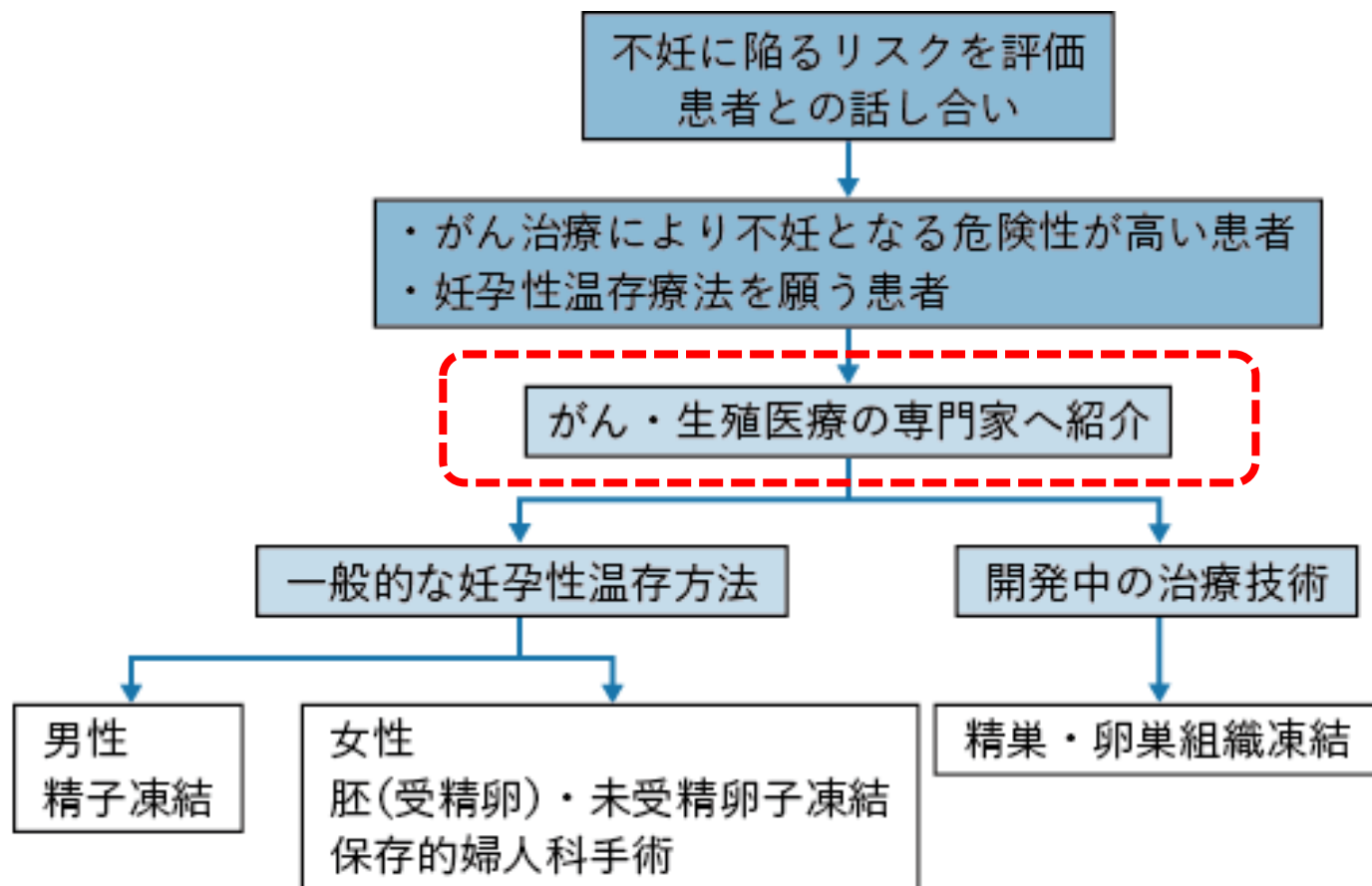
- がん・生殖医療 (Oncofertility) とは、
がん治療前～治療終了後の患者の将来的な妊孕性を維持
あるいは促進する医療

2012年 日本がん・生殖医療学会 設立

The screenshot shows the homepage of the Japanese Society for Cancer and Fertility Preservation (JSCFP). The header includes the society's name in Japanese and English, a search bar, and a mail icon. The main banner features a photograph of a doctor examining a child's head, with the text "希望を持って がんの治療に取り組む" (Engaging in cancer treatment with hope). Below the banner is a navigation menu with links for "学会の取り組み" (Society's activities), "妊孕性温存" (Fertility preservation), "がん治療別" (By cancer treatment), "がん疾患別" (By cancer type), "小児がん" (Pediatric cancer), and "がん治療後の妊娠" (Pregnancy after cancer treatment). At the bottom, a message reads "妊孕性温存の情報を的確なタイミングで" (Providing fertility preservation information at the right timing).

The image shows the cover of the clinical practice guidelines titled "小児、思春期・若年がん患者の 妊孕性温存 に関する診療ガイドライン" (Clinical Practice Guidelines for Fertility Preservation in Childhood, Adolescent and Young Adult Cancer Patients). The cover is green and white, with the year "2017" and "年 版" (Edition) prominently displayed. The text "JSCO Clinical Practice Guidelines 2017 for Fertility Preservation in Childhood, Adolescent and Young Adult Cancer Patients" is also visible. A list of contents on the right side includes: 総論 (General), 女性生殖器 (Female genital organs), 乳腺 (Breast), 泌尿器 (Urinary system), 小児 (Pediatric), 造血器 (Hematopoietic system), 骨軟部 (Bone and soft tissue), 脳 (Brain), and 消化器 (Digestive system). The publisher's name, "金原出版株式会社" (Kaneko Publishing Co., Ltd.), is at the bottom right.

若年がん患者に対する妊孕性温存のアセスメント



小児,思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2017年版

がん治療医およびその診療に関わる医療従事者は、**妊孕性温存**に関して患者の**意思決定の補助**を行う必要がある

がん診療連携拠点病院等の整備について



別添

がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針

II 地域がん診療連携拠点病院の指定要件について

2 診療体制

(1) 診療機能

⑥ それぞれの特性に応じた診療等の提供体制

- がん・生殖ネットワークへの加入
 - 院内での妊孕性温存支援整備
- は指定要件

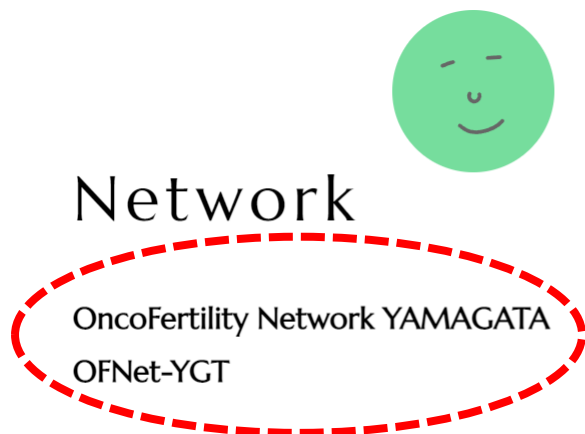
制を整備すること。自施設において、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の配置・育成に努めること。

エ 就学、就労、妊孕性（注11）の温存、アピアランスケア（注12）等に関する状況や本人の希望についても確認し、自施設もしくは連携施設のがん相談支援センターで対応できる体制を整備すること。また、それらの相談に応じる多職種からなるAYA世代支援チームを設置することが望ましい。

A世代
に、対
。患者
て、院
法及び
行う体

山形県におけるがん・生殖医療ネットワーク

2021年に立ち上げ



Yamagata

生殖医療施設

Reproductive Medicine

[View More](#)

日本産科婦人科学会

医学的適応による凍結・保存に関する登録施設

山形大学医学部附属病院

ゆめクリニック

その他の医療施設

準備中

現在はすべてのがん生殖における
妊孕性温存を、大学病院で行っている

2021年4月～

OFNet-YGT:山形県におけるがん生殖医療ネットワーク

がん治療医

情報提供・支援

各施設の

電話1本で担当医と直接相談
・外来予約が可能

生殖医療相談回線

生殖医が対応します

TEL: 023-628-5571

FAX: 023-628-5514

山形大学病院で可能な妊孕性温存の方法

▶ 男性

○精子

(×精巣内採取)

×精巣組織

▶ 女性

○受精卵(胚)

○未受精卵

×卵巣組織(東北大に紹介)

がん・生殖医療ネットワークの周知

(案)

令和2年度山形県がん診療連携協議会 がん患者相談室部会
次 第

日 時：令和2年7月31日(金)15:30～17:00

山形県がん診療連携協議会 がん患者相談室部会

- 山形県立中央病院(村山地域)
- 山形県立日本海総合病院(庄内地域)
- 山形県立新庄病院(最上地域)

(1) がん患者相談員スキルアップ研修会について (資料6)

(2) 生殖医療ネットワークの構築について (資料7)

(山大松尾先生、事務局軽部副部長)

4 その他

5 閉 会

* がん患者相談室部会メーリングリスト アドレス

妊孕性温存療法セミナー in 山形

開催日時

2022年 9月 14日(水) 18:00～19:00

登録締切：9月13日



オンラインセミナーの開催(企業主催)

対象：県内関連診療科の医療従事者
50名の医療スタッフが参加した

演 者 | 松川 淳 先生

山形県における妊孕性温存治療費助成事業について

演 者 | 山形県健康福祉部 がん対策・健康長寿日本一推進課

Session2

がん患者の妊孕性温存における意思決定支援について

座 長 | 山形大学医学部 外科学第一講座 准教授
河合 賢朗 先生

演 者 | 昭和大学保健医療学部 看護学科 教授
渡邊 知映 先生

Closing remarks

山形大学医学部 産科婦人科学講座 教授
永瀬 智 先生

- 本セミナーは、オンライン (ZOOM) を使用したセミナーとなっております。
- 事前に参加登録を頂いた医療関係者の方に限りご視聴頂くことが可能です。
- 右上の二次元コードか、リンクから事前参加登録をお願い致します。

主催 中外製薬株式会社 / 後援 山形県

第20回 日本乳癌学会東北地方会 ~Tohoku Breast Cancer Week~

乳癌学会地方会シンポジウム

東北の乳腺外科の先生方に
各県の妊孕性温存について紹介

ハイブリッド開催
現地開催+ライブ配信

2023年
3月1日(水)～5日(日)

会 場 仙台国際センター
会 長 石田 孝宣
東北大学大学院医学系研究科
乳癌・内分泌外科学分野 教授
角川 陽一郎
仙台赤十字病院
院長補佐 / 外科主任部長

青森：弘前公園の桜
秋田：武家屋敷通りの桜
岩手：弘前公園の一本桜
山形：鶴岡公園の桜と
数寄江神社
宮城：白石川
一日千本桜
福島：三春滝桜

当科における妊孕性温存療法施行症例(2021年4月～2023年6月)

精子凍結		卵子凍結		受精卵(胚)凍結	
年齢	疾患	年齢	疾患	年齢	疾患
33	AML	23	卵巣がん	41	乳がん
19	悪性リンパ腫	22	AML	31	乳がん
29	ALL	39	乳がん	40	乳がん
25	悪性リンパ腫	35	乳がん	32	乳がん
25	精巣がん	39	乳がん	39	虫垂がん
26	悪性リンパ腫			38	乳がん
14	骨肉腫				
38	悪性リンパ腫				
16	精巣がん				
24	悪性リンパ腫				
16	悪性リンパ腫				
24	縦隔腫瘍(セミノーマ)				
30	悪性リンパ腫				
24	再生不良性貧血				
31	AML				
20	肺癌				
23	縦隔腫瘍(セミノーマ)				
23	Ewing肉腫				
27	CML				

合計30名の妊孕性温存を実施

男性:血液疾患が最多(12/19人)

女性:乳がんが最多(8/11人)

- ・自施設内、他院からもそこそこ紹介は来るようになった
- ・これで山形のがん生殖は大丈夫？

実はそうではなかったことが、
OCJのアンケートにより露呈された



2023年
ネットワ
OCJから、山形のがん生殖ネットワーク構築に向け、
ワークショップ開催を提案いただいた

構築したと思っていたネットワークは「張りぼて」であった

- ・ 生殖担当医の一人歩き
- ・ がん治療医、生殖担当医、県の連携が取れていない
- ・ 担当者の顔が見えず誰が何をしているかわかりにくい
電話しにくい

2023年

ネットワ

当学会では、厚生労働省の調査結果を把握し、その中で持続可能な地域ネットワークの構築を推進しています。具体的には、ネットワークに関する調査は年1回の定期調査を予定しております。そこで、今年度第1回目のネットワークの構成に関するアンケートとして、貴ネットワークの状況について、下記の設問にご回答をお願い申し上げます。

OC Japanでは、ネットワーク間の相互支援のためには「顔の見える関係」を構築していくことが大切だと考えております。個人名の入力は、行政の担当者様におかれましては、変更頻度が多くなるかもしれませんが、事務局から年2回の定期確認をさせていただきますので、できるだけお名前のご提供も頂きますようお願い申し上げます。

■事業名：小児・AYA世代のがん患者等における妊孕性温存療法の研究促進事業
■調査件名：厚生労働省委託事業「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」地域がん・生殖医療ネットワークの構成と機能 実態に関するアンケート
■期間：2023年5月2日～5月31日
■対象：全国の都道府県がん・生殖医療ネットワークにおける、がん診療施設・生殖医療施設・行政部局

日本がん・生殖医療学会
OCJpn事務局

コアメンバーの招集

院内・県内がん診療連携拠点病院の

- ・関連診療科（産婦人科、乳腺外科、血液内科、小児科、泌尿器科、整形外科）
- ・看護部
- ・がん相談室

から、コアメンバーを推薦してもらい、

医師（15名）、看護師（7名）、MSW（1名）、県担当（1名）
計24名 を招集した。

- ・ 大変だったが、最も大切なことであった
- ・ メンバーとたくさんのやり取りをして自然とネットワークができていった

<WS コアメンバー一覧>

●山形大学

- ・産婦人科 永瀬智
- ・産婦人科 松川淳
竹原功
中村文洋
- ・乳腺外科 赤羽根綾香
(河合賢朗)
- ・泌尿器科 山岸敦史
- ・血液内科 伊藤巧
- ・小児科 目黒亨
- ・整形外科 菅原正登

・看護部

- がん看護専門看護師 鈴木理恵
- 不妊症看護認定看護師 佐藤ゆかり
- 生殖医療相談士 安藤則子
- 小児専門看護師 佐々木るみ子
- 血液内科看護師 武田理恵

●山形県 村山航太

●山形県立中央病院

- ・産婦人科 堤誠司
- ・乳腺外科 牧野孝俊

・がん相談支援センター 佐藤望

- ・乳腺外科 菅原恵
- ・産婦人科 清野朝史
- ・がん放射線療法認定看護師 本間紀子

ワークショップ内容

Oncofertility Consortium Japan ミニワークショップ@山形

～山形県のがん・生殖医療ネットワークを考える～



日時：2023年11月30日（木）18時00分～20時00分

会場：「山形医学交流会館」（山形大学医学部構内）

形式：ハイブリット開催

- 山形県がん・生殖医療ネットワークの紹介
- モデルケースで学ぶ実際の運用方法
- 持続可能ながん・生殖医療ネットワーク
～岐阜県での取り組み～
岐阜大学成育医療センター 古井辰郎 先生
- 特別講演
がん拠点病院における多職種による意思決定支援
大阪国際がんセンター 多田雄真 先生

【参加登録】

下記URL、またはQRコードより登録をお願いします。

登録締切：11月10日（金）

お問い合わせ 山形大学医学部 産科婦人科 担当：松川淳

主催：Oncofertility Consortium Japan 共催：山形県、山形県がん診療連携協議会

- ハイブリット開催で行った
- 顔が見えるネットワークの構築を目標としていたこともあり、特にコアメンバーの方々には**可能な限り現地参加**をお願いした
- 山形県のネットワーク、妊孕性温存の実際について紹介
- **ケーススタディを中心に置き、全体で議論できるようにした**
- ロールモデルとして、岐阜県のネットワークのご紹介
- さらなる発展モデルとして大阪国際がんセンターAYAチームのご紹介

ケーススタディ内容

36歳女性 乳癌

ケーススタディ 1

以下の症例について、グループ内でディスカッションをしてください。

★マークの設問をグループディスカッションのテーマの参考としてください。

●1-1

Xさん(36歳、女性)は、第2子希望あり近医で不妊治療を受けていました。近日行った乳癌検診で右乳房の腫瘍を指摘され精査目的に貴院乳腺外科を紹介されました。針生検の結果はトリプルネガティブ乳癌で、手術と化学療法を行う予定になりました。Xさんの実母にも乳癌の既往があります。

★ がん治療医の観点から、この患者さんにどのような情報提供を行いますか。またどのような手順で生殖医に紹介しますか？

●1-2

Xさんは、妊孕性温存に関するカウンセリングを希望され、貴院産婦人科に紹介されました。

★ 紹介受診時に必要な情報は何か？
妊孕性温存についてどのような説明を行い、意思決定を支援しますか？

●1-3

Xさんは、受精卵(胚)凍結を希望されました。

★ 山形県で受けることができる助成にはどのようなものがありますか？
助成を受ける際に必要な手続きは何か？

16歳男性 急性リンパ性白血病

ケーススタディ 2

以下の症例について、グループ内でディスカッションをしてください。

★マークの設問をグループディスカッションのテーマの参考としてください。

●1-1

Yさん(16歳、男性)は、全身倦怠感と発熱で近医を受診し、血液検査で白血球の異常高値を認め、A病院(妊孕性温存はできないがん治療施設)に紹介受診しました。検査の結果、急性リンパ性白血病と診断し、結果説明で両親とともに受診しました。

★ がん治療医の観点から、この患者さんにどのような情報提供を行いますか。
★ 妊孕性温存の担当施設への紹介の手順はどのようにしますか。紹介元病院のがん治療医の立場と、A病院の産婦人科医の立場、がん相談支援センターの立場からコメントをお願いします。

●1-2

Xさんは、妊孕性温存に関するカウンセリングを希望され、妊孕性温存可能なB病院に紹介され、両親とともに受診しました。

★ 妊孕性温存についてどのような説明を行い、意思決定を支援しますか？
★ 紹介前になるべく患者へ伝えられていることが望ましいことはありますか？
★ 凍結を希望した場合、どのような手順ですみますか？
★ 凍結を希望した場合、看護師の立場からどのように関わりますか？ 両親への関わり方についてもコメントをお願いします。

●1-3

Yさんは、精子凍結を希望されました。

★ 山形県で精子凍結について受けることができる助成について、女性の卵子凍結および胚凍結と異なる点についてコメントしてください。
★ 長期フォローをする際に、手続き上必要な点を行政の立場と産婦人科の立場からコメントしてください。
★ 凍結精子の使用を希望された場合、必要となるものは何か？

- ワークショップの時間に限りがあるため、事前にコアメンバーをグループ分けし、予定発言者を決めておいた
- グループごとに打ち合わせを行い、当日の論点をまとめておいた

OCJpnミニワークショップ@山形 (2023年11月30日 18:00~20:00)



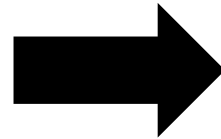
現地参加 32名
web参加 74名



ワークショップ開催後の変化①

前

- カウンセリング時に看護師の立ち合いなし
- 比較的時間に余裕のある症例でも治療開始直前の紹介がたびたびあった
- 性腺毒性リスクは生殖医が調べて説明



後

- カウンセリングには可能な限り専門看護師が立ち合い。また、がん診療科の説明の段階で、がん相談室看護師が関わるように
- より早期の紹介が増えた(生検結果の出る前、治療の内容確定前など)ため、妊孕性温存の対象が拡大した
- がん治療医が紹介状に、性腺毒性リスクに応じた、治療内容を詳細に記載してくれる

- 患者さんの選択の幅が広がった
- 妊孕性温存へのスムーズな移行が可能となった
- 生殖担当医の負担軽減

ワークショップ開催後の変化②

がん・生殖ネットワーク事務局を山形県に置くことが決定！（2024年4月～）

- 県担当者にコアメンバーとなってWSに参加してもらったことで、モチベーション向上！ 約4か月で、立案→採用という快挙を成し遂げた！
- 要綱を作成 →山形県がん・生殖医療ネットワークの役割、組織の明確化
- 相談体制、意思決定支援整備、研修会の開催に関しても要綱に記載

まとめ

- 山形県では2021年にがん・生殖ネットワークを立ち上げたが、実際はネットワークは構築できておらず、生殖医の一人歩きという印象であった
- OCJpnからミニワークショップ開催の提案を受け、準備をするうちに自然とネットワークが構築できてきた
- ミニワークショップを経て、がん治療医が主体的に妊孕性温存の可能性について考えてくれるようになった
- ミニワークショップを経て、県担当者がモチベーションモンスタ化し、たった4か月でネットワーク事務局を県に置くことが決定した

謝辞

発表の機会をくださった、金西先生、古井先生
本ワークショップに関わるすべての皆様に感謝申し上げます

香川県のがん・生殖医療ネットワークのご発展を祈念いたします

